



どこまで進んでる？

【最前線レポート】

ここ数年で急激に高まりつつある環境やエコに対する意識。でもまだまだ知らないこと、知っておきたいことがあるはず…。
 今月はそんな私たちの周りで行われているさまざまなエコや環境の活動・取り組みを紹介します。



1 パーマカルチャーってなに？

熊本・玉名 NPO法人 パーマカルチャーネットワーク九州

パーマカルチャーとは「永続性」を意味するパーマネットと「農業」を意味するアグリカルチャー、そして「文化」を意味するカルチャーの合成語。「自然のシステムを活かし、農の魅力や知恵を暮らしの中に取り入れ、環境と共生した暮らしを創造するデザイン体系」のことだ。これを学び、九州を拠点に活動しているのが「パーマカルチャーネットワーク九州」。研修会やワークショップを行いながら、自分たちが自然とともにどうあるべきかを学び、実践している。

問合せ
 NPO法人 パーマカルチャーネットワーク九州
 熊本県玉名市岱明町野口918-1
 0968-71-1106
<http://pcnq.net/>



パーマカルチャー講座の様子。熊本だけでなく県外の参加者もあり、輪が広がっている。

2 グリーンツーリズムで癒しと学びを

大分・安心院 NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会

緑豊かな農山漁村地域で、自然・文化・人々との交流を楽しむグリーンツーリズム（農村民泊）。新しい旅の形として人気だが、中でも大分県安心院は日本におけるグリーンツーリズム発祥の地として知られ、年間約7000人が訪れる。地域の民家に宿泊し、受け入れ家族の一員として一緒に食卓を囲んだり、農作業を手伝ったりとふれあいの時間を過ごすのが安心院方式。本物の非日常体験が参加者に癒しや感動を与える。

受け入れ全般をサポートするのが、「NPO法人 安心院町グリーンツーリズム研究会」だ。広報部、企画開発部、アグリ部、環境美化部などそれぞれの専門部が主体的に活動を行いながら、受け入れ家庭と共に農村民泊の知識や実践ノウハウを学ぶ「グリーンツーリズム（GT）実践大学」などの研修を随時行い、質の高い農村民泊を目指す。地域とNPOと行政が高度に連携・機能している先進的な例として評価が高く、国内外からの視察も多い。



積み立て方式で行うグリーンツーリズムの本場ドイツでの実地研修は、今年2月で第11回を迎えた。GT実践大学では、地域活性や環境、食・旅行、観光などに関する講師を招いての研修も行っている。

問合せ
 NPO法人 安心院町
 グリーンツーリズム研究会事務局
 0978-44-1158

人口約7,100人の純農村で、大分県北部に位置した美しい盆地の町、安心院。西日本有数のぶどう産地でもあり、「安心院ワイン」が有名。福岡・北九州から車で約2時間。

3 「地元で生きる」トラジション・タウン

熊本・南阿蘇村 トラジションタウン

石油に依存した大量消費型の暮らしから、地域の人のつながりや特長を生かした持続可能な暮らしへと移行する取組み「トラジション・タウン」が静かに、だが着実に広がっている。熊本県南阿蘇で昨年9月より「トラジション・タウン南阿蘇」の活動を始めた山口さんのも一人だ。「石油に依存した暮らしはいずれ終わり、



みんなで味噌作り。国内のトラジション・タウンは現在13地域。（「NPO法人トラジション・ジャパン」内）。南阿蘇のコアメンバーは5名で、他所から移住してきた家族が中心。

4 エコなスポーツが流行る？

北九州・平尾台

山や自然公園など自然を舞台に、登山道や林道などの舗装されていない道を走るスポーツ、「トレイルランニング」が、今人気を集めている。ここ1・2年で続々と専門誌が創刊され、アウトドアメーカーも新しいアクティビティとして注目。今年4月に平尾台で開催された「北九州・平尾台トレイルランニングレース」では、老若男女あわせて450人が参加。関東・関西からも



若い女性も多く、ウェアもカラフルでお洒落。



身の回りの材料で、簡単にDIYで作れるロケットストーブづくり。環境にも優しい。活動を続けていくことで同じような志を持った人とのつながりが生まれ、自分の住む地域の資源（人・もの・自然）の発見にも繋がるという。

問合せ
 トラジションタウン南阿蘇
<http://go-surfing.net/minamiaso/>

ハゼの木で作るキャンドル。

5 今、物々交換が新しい！

福岡・天神・西新 物々交換プロジェクト mono-cle

本やCD、洋服などを対象に、ポイント制の物々交換でモノの循環と人の交流による環境PR活動を行う「物々交換プロジェクト mono-cle」。「お金で消費する生活より、皆で分かち合うライフスタイルに魅力を感じ実践したいと



物の交換を通して人との新しい繋がり生まれる。

問合せ
 mono-cle
mono-cle@joy-box.info
<http://www.joy-box.info/mono>

6 生ゴミがプラスチックに？

北九州・響灘地区 九州工業大学 エコタウン実証研究センター

今、植物を原料にしたプラスチック「バイオマスプラスチック」が注目されている。化石燃料の使用とCO₂の排出を抑えられ、環境に優しいのが特徴だ。従来の石油系プラスチックに比べて分解しやすく、リサイクルしやすいうえに、リサイクルのたびに、純度を上げることでより良い品物の原料として使うことが可能であるため、資源循環の視点からも期待が高い。



このバイオマスプラスチックを生ゴミからつくる研究を行っているのが、九州工業大学エコタウン実証研究センターだ。既に飲料用のプラスチックとして製品化され、福岡ドームのピアカップとしても採用されている。

問合せ
 九州工業大学
 エコタウン実証研究センター
<http://www.isse.kyutech.ac.jp/ecotown/>



毎年北九州で行われる、NPO・企業・行政などが協働して環境に配慮したまちづくりを提案するイベント「エコスタイルタウン」での模様。